調布市男女共同参画推進センター通信

しえいくはんず

No.30　2008（平成20）年2月1日

発行　調布市男女共同参画推進センター

〒182-0022　東京都調布市国領町2-5-15 調布市市民プラザあくろす3階　☎042-443-1213
fax 042-443-1212　メール danjyo@w2.city.chofu.tokyo.jp　ホームページ http://chofu-danjyo.jp/

Special Topics

団塊世代がデザインする これからの暮らし

ー居場所・仲間・男女のかたちー

第二次世界大戦が終わって、男性が外地から復員し、世の中に平和が戻ってくるとベビーブームが起こりました。前後の世代に比べて人数が特に多い1947（昭和22）年から1949（昭和24）年に生まれた人々を団塊の世代と呼んでいます。団塊世代が入学した小学校の教室には50人以上の同級生がいました。中学校では1学年10クラス以上が珍しいことではなく、20クラス以上の学校もありました。激動の時代を生き、そのときどきで新しい文化を築き続けてきた世代が、再び仕事や生活を大きく変える時期を迎えています。今後、団塊世代の一人ひとりは、どの方向を目指し、世の中にどのような影響をもたらすことになるのでしょうか。

平成17年度男女共同参画推進センター主催講座「今から考えよう！ 定年後のわくわくライフ」に参加した方々で立ち上げたサークル「輪クロス」代表の田中龍彦さんとメンバーの桑田和恵さんにお話を伺いました。

サークル「輪クロス」には、2組の夫婦を含む男女20人が参加し、毎月1回、料理教室やパソコン講座、史跡散策などバラエティに富んだ活動を続けています。

Q サークル活動が続いている秘訣は？

田中 活動はみんなの意見で決め、自分の意思で選択して参加しているからだと思います。

桑田 自由に発言でき、会員の豊富な技や知に触れ、楽しく学べるからだと思います。

Q 男女での参加はいかがですか？

桑田 いろいろな地域の人が集まり、男女共同で料理をし、話し合いをするのは新鮮でした。「そうだ！世の中は男女共同参画で成り立っているんだ」と自然に思えました。

Q パートナーとの関係は？

田中 お互いに自分の趣味や世界を持ち、その上で共通の部分も大事にしています。

桑田 個人として独立しつつ、家事や育児を協力し合ってやってきました。感謝の気持ちを忘れないようにすることやたくさん話をすること、二人で出かけるなど経験や感動を共有することも心がけてきました。

Q 培ってきた経験や能力を地域で生かすために必要なことは？　行政に求めるものは？

田中 仕事の面で培った経験がすべて役立つとは限りませんが、とにかく周りの人と協力し合いたいと思っています。行政と市民の連携は大切だと思います。行政が場を提供して、その運営を市民団体が協力して担い、市民が健康であり続けるためのプログラムなどを行っていけるといいですね。

桑田 人に必要とされる人間でありたいと思います。若い人より経験を積んだ分だけ何かしらお役に立てるのではと思います。生きてきた証として、そう思う人は多いのではないでしょうか。そのためにも、コミュニティが活発になるといいですね。行政に対しては、必要としている人が利用しやすい情報の提供を望みたいです。シニア向けの講座や働いている人向けに日曜日開催の講座が増えるとうれしいです。

Q 仲間づくりを望む人へのアドバイスは？

田中 とにかく参加してみることです。楽しくできることが見つかればやればいいし、負担になるようだったら引けばいい。

Q 30代、40代の人たちに伝えたいことは？

田中 仕事を辞めてからも楽しめる、お金をかけずにできる趣味を早く見つけること。

桑田 たとえ夫婦でも以心伝心はないことを伝えたい。自分の考えや気持ちは我慢しないで、相手を思いやりながら伝えて意見交換することが大切。自分が生き生き暮らすことが周りの幸せにもつながると思います。

年表でみる団塊世代

男女共同参画社会基本法

日本国憲法では、男女平等が規定されていますが、日々の生活の中ではいかがでしょうか？女性労働者の賃金は相変わらず低く、意思決定の場が男性で占められていたり、男性にとっても仕事中心が求められ、家庭や地域社会への参画ができにくくはないでしょうか。

このような状況から、「男女共同参画社会基本法」は、男女がお互いに人権を尊重しながら責任も分かち合い、性別にかかわりなく、自らの能力や個性を十分に発揮できる社会「男女共同参画社会」の実現をめざすために、1999年6月に制定されました。

調布市では、「ともに認めあい、ともに参画するまち、調布」を基本理念として、講座・講演会や相談など、様々な施策を行っています。

家庭科の変遷

家庭科は、1947年に発足した新しい教育制度により誕生しました。戦前、女子にのみ家事・裁縫を学ばせたことを改め、小学校では男女必修「家庭科」、中学校では男女選択必修「職業科」、高校は共学選択「実業科（家庭）」として出発しました。その後、中学校では男女別々の教育内容の「技術・家庭」になり、高校では「家庭一般」が女子の必修に変わりました。しかし、市川房枝氏を中心とする「家庭科の男女共修をすすめる会」など世論の動きや、1985年に批准された「女子差別撤廃条約」に規定された教育の内容によって、1993年に中学校で、1994年に高校で家庭科の男女共修が実施されるようになりました。

現在、育休を取ろうとする男性が現れる一方、エンジニア・建築・電気関係などの仕事に就く女性が少しずつ増えているのは、技術分野にまたがる家庭科共修の効果でしょうか。

働きすぎといわれて

団塊世代が働き盛りだった1987年、製造業・生産労働者一人あたりの年間総実労働時間（残業、休日出勤などを含む）は先進諸国の中で日本が最も長く2168時間で、第２位のアメリカは1940時間でした。ちなみにフランスは1645時間、ドイツは1642時間でした。この年、日本の一人当たりGDP（国内総生産）がアメリカを抜いて初めて世界一になりました。

諸外国からの要請もあり1992年、時短促進法が制定され、労働時間を短縮する取り組みが行なわれるようになったため、1993年以降は2000時間を切るようになりました。現在の週休２日制が普及していったのもこの頃からです。

『わたし、作る人　ぼく、食べる人』

団塊世代が20代後半の頃、このフレーズが食品のCMで使われました。高度経済成長が残した家庭の風景を描いたCMでした。

高度経済成長期には、男性は国の経済的発展と個人の生活レベル向上のため、勤勉なサラリーマンとなりました。一方、女性には結婚まで男性の補助として低賃金で働き、結婚して核家族化した家庭を守るというスタイルが定着しました。食べる人、作る人の分業化です。生活が豊かになっていく社会環境では、労働問題が男女平等という視点から大きく取り上げられることはありませんでした。

ところで、このCMは、性別役割分業をより定着させるとのクレームにより放映中止となりました。1975年、国際婦人年の出来事です。30年以上たった現在、皆さんはどのようなフレーズで家庭を表現しますか？

憲法と男女共学

日本国憲法は、基本的人権の尊重を大原則としています。男女平等もそのひとつとして第14条「法の下の平等」に規定され、さらに、第24条には「家族生活における個人の尊厳と両性の平等」などが具体的に規定されています。団塊は、男女平等を謳った憲法の基で生まれ育った最初の世代といえます。

1947年制定の教育基本法では、第５条に「男女共学」の規定が明文化されたことにより、公立学校などは男女共学が原則になりました。しかし、2006年の改正により、性別その他によって教育上差別されない、という条文があることを理由にこの規定は削除されました。

08 07 06 05 04 03 02 01 2000 99 98 97 96 95 94 93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67 66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 1945

60才　50才　40才　30才　20才　10才　0才

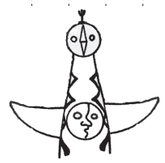
団塊ジュニア誕生　▲大学入学　▲高校入学　▲中学校入学　▲小学校入学　団塊世代誕生

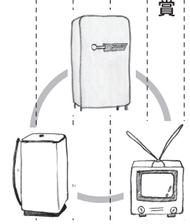
高度経済成長期

いざなぎ景気　岩戸景気　神武景気

日本のできごと

- 08 離婚時の厚生年金の分割制度施行
- 07 『熟年離婚』
- 05 少子化社会対策基本法施行
- 04 日韓ワールドカップサッカー開催
- 03 配偶者暴力防止法施行
- 02 ストーカー行為等規制法施行『地上の星』
- 01 男女共同参画社会基本法施行
- 99 長野冬季オリンピック
- 98 特定非営利活動推進法公布　労働基準法改正
- 97 阪神淡路大震災　ILO家族的責任条約批准
- 96 育児・介護休業法施行
- 95 中学校の家庭科男女共修　パートタイム労働法施行
- 94 育児休業法施行　バブル崩壊　リストラ
- 93 消費税成立　1.57ショック（合計特殊出生率）　昭和から平成へ
- 92 青函トンネル開通　過労死　セクハラ
- 91 配偶者特別控除制度創設
- 90 男女雇用機会均等法施行　第3号被保険者制度創設
- 89 女子差別撤廃条約批准
- 88 国籍法・戸籍法改正公布（父母両系血統主義採用）
- 87 東京ディズニーランド　『金曜日の妻たちへ』
- 86 『シンデレラコンプレックス』
- 85 『関白宣言』『いとしのエリー』
- 84 日中平和友好条約調印
- 83 王貞治ホームラン756号
- 82 ロッキード事件
- 81 『わたし、作る人　ぼく、食べる人』
- 80 オイルショック
- 79 沖縄返還　日中共同声明　札幌オリンピック　浅間山荘事件
- 78 新日米安保条約自動延長　大阪万博
- 77 反安保闘争・全共闘運動　安田講堂陥落　フォークソング流行
- 76 3億円事件
- 75 3C（カー・クーラー・カラーTV）
- 74 ビートルズ来日
- 73 東京オリンピック
- 72 中学に技術（男子）・家庭科（女子）新設　首都高速開通
- 71 配偶者控除制度創設
- 70 大規模な反対運動の中、新日米安保条約締結　所得倍増計画
- 69 新幹線開通　東京タワー　インスタントラーメン新発売
- 68 国連に加盟　水俣病問題化
- 67 ゴジラ　三種の神器（洗濯機・冷蔵庫・テレビ）
- 66 対日講和・日米安保条約調印
- 65 湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞
- 64 優生保護法施行
- 63 日本国憲法施行（男女共学）　学校給食開始
- 62 24条（家族生活における個人の尊厳と両性の平等）
- 61 日本国憲法公布（14条「法の下の平等」）
- 60 広島・長崎原爆投下　ポツダム宣言受諾





世界のできごと

- 08 ソ連ペレストロイカ政策
- 07 ベルリンの壁崩壊
- 06 湾岸戦争勃発　ソ連邦崩壊
- 05 第3回世界女性会議（ナイロビ）
- 04 国際人口・開発会議「カイロ宣言」採択
- 03 第4回世界女性会議（北京）
- 02 国連特別総会 女性2000年会議（ニューヨーク）
- 01 米国同時多発テロ
- 99 米英によるアフガニスタン攻撃
- 98 米英によるイラク攻撃
- 97 国連「女子差別撤廃条約」採択
- 96 「クレーマークレーマー」
- 95 イラン・イラク戦争
- 94 第2回世界女性会議（コペンハーゲン）
- 93 ベトナム戦争終結
- 92 第1回世界女性会議（メキシコシティ）　国際婦人年
- 91 アポロ11号月面着陸
- 90 初の女性宇宙飛行士テレシコワ「わたしはかもめ」
- 89 宇宙飛行士ガガーリン「地球は青かった」
- 88 ベトナム戦争勃発
- 87 朝鮮戦争勃発
- 86 第1回世界婦人大会（コペンハーゲン）
- 85 国連世界人権宣言採択

女子差別撤廃条約

女子差別撤廃条約は1979年12月に採択され1985年６月に批准されました。この条約は女子に対するあらゆる差別を根絶し、真の男女平等を実現することを理念に「法の下の平等」はもとより、「事実上の平等」の達成も視野に入れていることから、「一歩進んだ人権条約」といわれています。

この条約を批准したことにより、日本では「国籍法」を改正し、「家庭科の男女共修」の実現、「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」の制定など、国内法や制度を整備し、男女平等への歩みを進み始めました。

世界女性会議

1972年の国連総会で、1975年を「国際婦人年」と宣言。

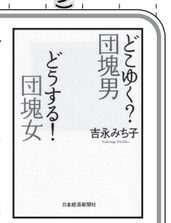
その1975年。「平等・開発・平和」を３大テーマとして、第１回世界女性会議が開催されました。

第１回（1975年	メキシコシティ）	メキシコ宣言の採択
第２回（1980年	コペンハーゲン）	女性差別撤廃条約の署名
第３回（1985年	ナイロビ）	ナイロビ将来戦略採択
第４回（1995年	北京）	北京行動綱領の採択
女性2000年会議（ニューヨーク）		北京行動綱領実施の評価

第４回会議の際行われた「女性NGOフォーラム　‘95北京」では、日本のNGOから約5000人が参加し、エンパワーされた女性たちが帰国後、さらに全国で活動を展開しています。

BOOK REVIEW

どこゆく？団塊男　どうする！団塊女
吉永みち子著
日本経済新聞出版社（2006年）



ひとつの方向に向かってひたすら突っ走ってきた団塊世代。でも、この先はどこに向かおうか。

遊び、趣味、ボランティア、再就職、起業、Uターン、田舎暮らし、海外暮らし…「したいこととできることの間にある溝の深さをしっかりと覗き」つつ、お金、住まい、病気や老い、夫婦関係の見直しや子どもとの距離の取り方まで、自らも団塊世代の著者が様々な将来像を示します。

BOOK REVIEW

おひとりさまの老後
上野千鶴子著
法研（2007年）

「長生きすればするほど、みんな最後はひとりになる。結婚したひとも、結婚しなかったひとも、最後はひとりになる」とすれば、誰もが、ひとりで暮す老後に向けて準備しておくとよいのではないか。

先輩たちの知恵や自らの経験を紹介し、老後に対する不安の原因をひとつひとつ取り除いています。

女性学研究の先駆者で団塊世代の著者が、すべての女性に「老後は怖くない」とエールを送る一冊です。

BOOK REVIEW

定年後―豊かに生きるための知恵
加藤仁著
岩波書店（2007年）

「自分らしく躍動することが第一、収入は二の次。定番メニューにこだわらず、自分の関心事につきすすめばいい。選択肢は無数にある。団塊世代の定年後も、人数の多さをたのみに動くのではなく、あくまでも『自己本位』を貫き〝個〟に立ちかえることを心がけたい。」（あとがきから）

本書は、25年間定年退職者を取材してきた著者が、「六十才以降を生きる自分のテキストでもある」と言っている一冊です。

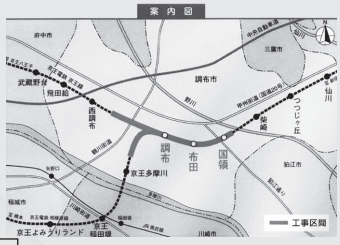
調布市街づくり推進課からのお知らせ

京王線連続立体交差事業実施中!

1. 連続立体交差事業とは…

事業概要

京王線連続立体交差事業は、京王線柴崎駅（調布警察署付近）～西調布駅（常演寺付近）間約2.8㎞の区間と京王相模原線調布駅～京王多摩川駅（市立富士見台小学校付近）間約0.9㎞の区間を地下化することにより、現在ある18箇所の踏切を解消するとともに、8箇所の都市計画道路を立体化するものです。現在、平成24年度末の完成を目指し事業中です。

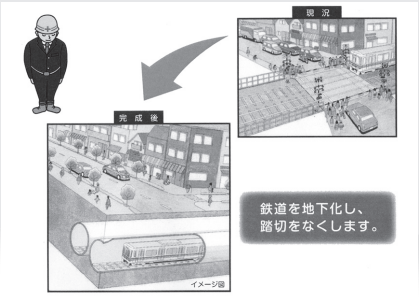


2. この事業によって街にはどんな効果が期待できるのでしょうか?

事業効果

①交通の円滑化
②安全性の向上
③地域の発展
④利便性の向上

踏切がなくなることで交通渋滞が解消され、安全性が向上するほか、南北市街地の一体化等地域の活性化や駅利用者の利便性向上などが図られます。



3. 誰が行っている事業?

事業役割分担

この事業は、東京都の都市計画事業として進めており、東京都・調布市・京王電鉄（株）の3者が相互に連携して進めており、おおむね次の役割分担で施行しています。

東京都＝事業の総括、交差する都道整備
調布市＝交差する市道整備、付属街路整備（なお、市では、この事業にあわせて駅前広場など中心市街地の街づくりにも取り組んでいます）
京王電鉄（株）＝鉄道用地取得・鉄道施設工事など（事業費については、国・都・市・京王電鉄（株）で負担。）

お問合せ
調布市街づくり推進課
電話０４２（４８１）７４１７

盛況に幕！「団塊世代に向けての講座」

平成17年度から継続実施している団塊世代に向けての講座を、今年度は「夢を求めて、習い・学び・創る～今だからできる・今しかできないこと」と題して開催し、多くの方のご参加をいただき、好評のうちに終了しました。

①11月10日「調布の農家探訪～土に親しみ、春野菜に挑戦」

国領元気村村長の杉崎忠雄さんの農園を訪ね、野菜の種の様々な形に驚き、育てるコツを教わり、ほうれん草の収穫体験をしました。

②11月17日「産地直送、新鮮材料で味わう旬の味～夫婦で協働、楽しく食べよう」

調布市の姉妹都市である木島平村の、当日の朝収穫した野菜やきのこを使って、楽しく調理し、おいしくいただきました。

③12月1日「歴史をひもとく～古文書からみえてくる江戸の暮らし」

難しく見える古文書を、講師の丁寧な説明に導かれ、少しずつ読み解くことによって、江戸の暮らしを垣間見るという、新しい楽しみを発見できました。

④12月15日「ここでの暮らしが楽しい～そんな町にするために団塊男女にできること」

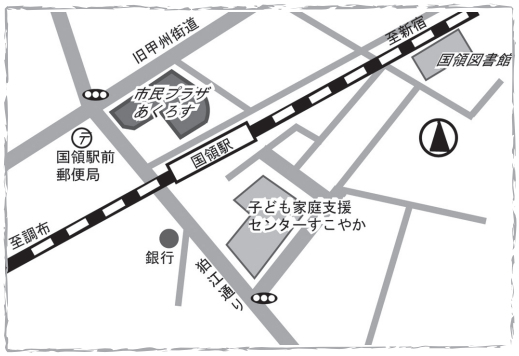
経済状況や高齢化問題、それを乗り越えるためのヒント、また調布市との比較など、豊富な資料に新鮮な驚きを覚え、講師の軽妙な語りを堪能しました。

調布市男女共同参画推進センター

調布市男女共同参画推進センターは、調布市男女共同参画推進プランに基づき、男女共同参画社会を実現するため、講座・講演会の開催、相談事業、情報収集発信事業、市民活動支援事業を行っております。

TEL ０４２（４４３）１２１３
FAX ０４２（４４３）１２１２
E-Mail danjyo@w2.city.chofu.tokyo.jp
Homepage http://chofu-danjyo.jp/

最寄駅…京王線国領駅北口徒歩1分
※車でお越しの場合は、コクティー駐車場（有料）をご利用いただけます。
※自転車でお越しの場合は、国領駅北駐輪場をご利用いただけます。



〒182-0022　調布市国領町2-5-15
調布市市民プラザあくろす３階

R100
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用